



野村 富雄さん
(鶴馬在住)

- 硯友会会長
- 富士見市文化協会
広報部部长

文化芸術活動で
人と人が結びつくまちへ

地域と関わりをもったきっかけは、定年退職の折に富士見市民大学を受講した事が、地域との出会いです。その後、書を深めたいと思い、盟友と硯友会を結成し17年になります。本格的に書道を学びたいと大学にも通いました。富士見市シルバー人材センターから講師の声があり、富士見市コミュニティ大学、鶴瀬公民館・南畑公民館の高齢者学級と、受講者の熱心さに後押しされ、ともに書道の楽しさを味わいながら講師を務めています。

力を入れて取り組んでいる硯友会の「小中学生の書初め教室」



は10年が経過しました。何か地域に還元できることはと考え生まれたもので、会員それぞれ懸命に子どもたちと取り組んでいます。今年は新たな取り組みとして、富士見高校書道部の皆さんに書道パフォーマンスを行ってもらいました。書道を通して、さまざまな世代間の交流が活発になればと願っています。また、富士見市文化協会も活動が盛んですが、さらに文化芸術の力で、地域を支える力をより高め、次世代につながるコミュニティができればいいと思っています。

地域で書道を愛する人の大輪を広げるのが私の目標です。「キラリ☆ふじみ書の大作品展」などを皮切りに身近で書道の素晴らしさに触れられる「豊かな文化芸術のまち 富士見市」を夢見ています。

歴・史・探・訪

ふじみ・発見!

34

市内の発掘調査⑥

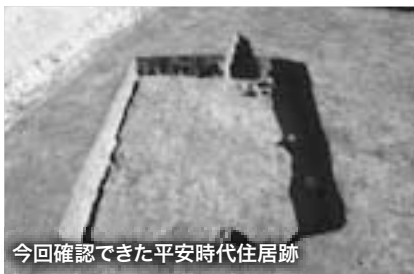
【東前遺跡 第16地点】

東前遺跡は、北側が荒川低地と新河岸川に臨む武蔵野台地縁辺部に位置し、水子貝塚公園の東側、大字水子字東前や字久保新田と呼ばれる地域に広がる遺跡です。荒川低地から武蔵野台地へと上がる崖線上に分布する遺跡群のひとつで、周囲には水子貝塚をはじめ氷川前遺跡や観音前遺跡、東台遺跡といった大規模な遺跡が連なっています。これまでの調査では、縄文時代早期、弥生時代後期、奈良時代、平安時代、中近世の遺構や遺物が確認されています。

今回ご紹介する第16地点は区画整理事業に伴い、平成25年11・12月に調査が行われました。その結果、縄文時代のものでは、住居跡1軒・炉穴4基・集石1基、弥生時代では住居跡1軒、平安時代では住居跡2軒、中世以降では柱穴列・井戸跡などが確認されています。縄文



今回確認できた縄文時代住居跡



今回確認できた平安時代住居跡



時代住居跡は、水子貝塚に近い場所を確認されており、同じ時期のものでした。水子貝塚の環状に広がる集落の外側に1軒単独で分布していたこととなります。

弥生時代住居跡は東前遺跡では初めて確認されました。富士見市では弥生時代の集落は柳瀬川に臨む台地上や谷の周辺を中心に展開し、その下の低地に谷田を営んでいたと考えられます。しかし東前遺跡の東側に隣接する観音前遺跡や、西側の富士見江川流域に展開する氷川前遺跡・松山遺跡・打越遺跡でもこの時期の住居跡などが確認されていることから、新河岸川や江川に臨む台地縁辺部にも小規模ながらも集落を形成し同様に生活していたことがうかがえます。

平安時代住居跡は観音前遺跡に近い場所を確認され、出土資料から9世紀代のものと思われる。観音前遺跡を中心に広がる平安時代集落のうちの一つでしょう。

第16地点は久保新田の地名が示すとおり土地が窪地状に低くなっている、今回確認できた遺構は窪地部分から上がってきた土地の高い場所に分布していることが判明しました。

問合せ／生涯学習課 ☎049-256-7023